

「建築技術デジタルアーカイブス博物館」構想

建築技術アーカイビング研究会

あらゆる技術は記録・保存しないと伝承されない。そして技術の伝承なくしては、その発達の礎となる力が失われる。都市や社会、そして居住環境の持続的発展に必要不可欠である建築技術の発達を支えるためには、それら技術を現在および次世代の建築技術の担い手に正しく伝承する必要がある。

建築は古くから文明・文化の発展に深く関わってきた。しかるに、建築に関わるニュースなどではマイナスイメージのものが多く、若者の業界の対するイメージはあまり芳しいものではない。加えて、さまざまな技術を複合して成立っている建築技術は、益々浸透する技術の分業化や専門化により技術の全体像が見えにくくなっている。更には次世代を担う若者たちの「技術離れ」により、今日まさに「伝承の危機」にあると言える。

多くの産業が、博物館等の施設を持って、それぞれの発展史と役割についての広報活動をしているのに対し、我々はあまりにも建築の文化性や社会的役割の重要性、それに携わるものの姿などを正しく世の中に理解してもらう努力をしてこなかった。建築が新しい人材を確保しながら使命感の下で健全な発展を続けるためには、建築技術を正しく保存・記録し広く参照可能とするとともに、次世代を担う若者たちが建築やその技術に深い関心と興味を持つように働きかける文化発信事業が必要である。

建築技術アーカイビング研究会では、このような認識のもと、ICT 上のバーチャルな環境下での「建築技術のデジタルアーカイブス博物館」構想を検討してきた。近年のデジタル技術の発展に呼応して多くの機関でデジタルアーカイブの動きが盛んになってきている。しかし、「建築技術」との切口でのアーカイブスの活動はまだ少ない。本構想の最終目標は、建築技術に関する資料を収集するとともに、類似の活動をしている各機関とネット上で有機的な連携をはかり、より多くの人々に情報を発信する拠点を設けることにある。

「建築技術のデジタルアーカイブス博物館」構想の実現に向け、多くの方々のご賛同とご支援を賜るようお願い次第である。